



街角特派員レポートNo.201

「読書」は「本」との出会いです

# 出掛けましょ 本から広がる 無限の世界へ

## 趣味がボランティアに生きて

私事で恐縮ですが、12年前に胃がんの手術をした直後に、自分のライフスタイルを見直ししました。ずっとこの先もこれだけは続けていきたい、と思ったのが「ゴスペル」と「読み聞かせボランティア」でした。

「読み聞かせボランティア」をスタートさせたのは、次男がまだ中野小にお世話になっていた13年前です。すでに高島小と中野東小には先輩ボランティアの会がありました。そのとき、巨摩町の読み聞かせに対する意識の高さに感心したものです。現在、私は中野小と中野東小の「読み聞かせボランティア」に参加させてもらっています。もともと20代のところから絵本や

本（以下、「本」）収集が趣味だったこともあり、読み聞かせに行く前には「今度のクラスの子どもたちは、どんな本が好きかな。どれを読もうかな」とワクワクしながら本を選びます。町立図書館にたくさんある本の中から吟味して借りてくることもあります。

## 変わるものも、変わらないものも

10年以上やってきて思うことは、子どもたちを取り巻く環境ってどんどん変わっている

無限の可能性を持つ子どもたち。その可能性を引き出すきっかけになるのが『読書』。それは、「本」との出会いです。スマホやゲームもほどほどに。子どもの興味を広げ、感性を磨くのは「本」だと私は主張したい。



街角特派員  
栗原 弘美

(十三坊塚・6区)

Profile●くわばら・ひろみ  
太田市出身。24年前に邑楽町へ。ゴスペルサークル[Soul Joy]に所属。月3回ほどの一人カラオケでいろいろ(?)と発散。5月に始めた乗馬が趣味の一つに。いつかモンゴルの草原を駆け回ってみたい、と話す。

## 進む本離れ? 進むデジタル化?

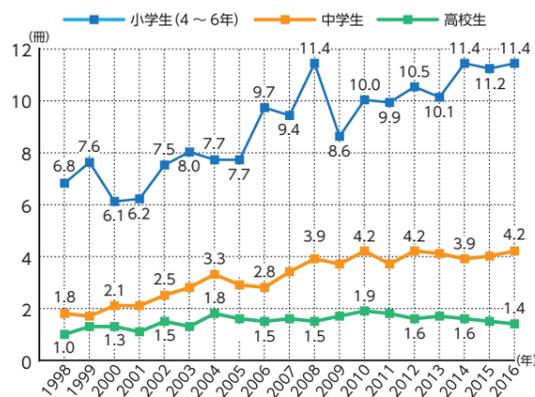
携帯ゲーム機やスマートフォンなどのデジタル機器の普及、個人経営の書店の相次ぐ閉店、出版業界の不振など、子どもの本離れにつながる環境変化が相次いでいます。その実態はどのようなものなのでしょうか。本に子どもたちは、本離れを起しているのでしょうか。

全国学校図書館協議会が公開した「学校読書調査」の一部(左下表)から、小中学生・高校生の1か月の平均読書冊数を調べてみました。

すると、2000年以降は本離れどころかむしろ増加の傾向にあることが分かります。特に小学生での増加は著しく、直近の2016年では小学生が11.4冊、中学生は4.2冊、高校生は1.4冊という結果です。

特に著しい増加を見せる小学生ですが、その理由を高島小学校で司書を務める米山玲子先生は「2001年に文部科学省が掲げた『朝の読書活動の推進』をきっかけに、朝の読書運動が広まりました。また、『図書』という教科はなくても、国語や社会の中で図書室の利用を促されるようになったことも大きい

## 当年5月1か月間の平均読書冊数の推移



## 「家に帰ってからは？」が肝

では、「家に帰ってからはどうか」というところが、私がレポートする肝です。

一貫した調査結果が見当たらなかったため、町教育委員会の竹澤政司指導主事にお話を聞きました。竹澤主事は「小学校では、司書が読書への動機づけをしたり、先生が授業の中に読書を取り入れたりしているので、楽しく読書に向かう子どもたち

の姿が多く見られます。一方で、年2回行なっている『教育活動等に関するアンケート』の「お子さんは家庭で読書をしていますか」の回答結果からは家庭における本離れが進んでいることが分かります」と話してくれました。

## 今の子どもの中の「本」

「子どもがテレビやスマホゲームに夢中で手放さない」。こんな悩みを抱えながら、生活習慣を変えられないご家庭が多いのではないのでしょうか。もし、その手にあるのが「本」だったら……。それは悩みになるのでしょうか。電子メディアに取り囲まれ、活字と向き合う時間が減ること、文章を正確に理解したり、自分の考えを分かりやすくまとめたりする言語力が低下している指摘されています。

## 感性豊かな子どもこそ

特に小学校低学年のうちには共感能力という特殊能力が備わって

て、その本(お話)の中に入ると入り込めるそうです。お話の主人公になりきってまるごと体験する。その中から勇気や自信、思いやりなど人間として大切な心を育んでいくのだと思います。何よりも「想像力」が広がると思います。お話から広がる無限の世界。しかも一人一人がみんな違った世界を持つことができるのも魅力です。

## また種は、いずれ芽を出す

「言葉あそび」の本も楽しいです。日本語には微妙なニュアンスの異なる言い回しや言葉がたくさんありますよね。私はダジャレが大好きなので、リズムカルな言葉あそびの本を眺めては、一人でニヤニヤしてしまいます。語彙が豊富だと、何となく人間としての奥深さを感じられませんか?

「本を読むことは、子どもの心に一粒の種をまくことである」と聞いたことがあります。その種がたとえゆっくりにあっても、芽を出して心にしつかりと根付き育っていくことを願って、私は本を勧めたいです。

子どもが読書習慣を身に付けるのに、親ができることは？今回は「本が好き」「たくさん本を読んでも」という、三つのご家庭のお話を聞くことができました。子どもを本好きにするヒントも(?)・・・。

お姉ちゃんが本を読んであげる姿、ほほ笑ましく



**育児雑誌に学び 生まれながら本がある環境に**  
 長女の育児中に読んだ育児雑誌に「子どもには本が大事」と書いてあったことが私の、読書は大切マインドの基礎です。穏は3人きょうだいの末っ子。だから、生まれたときには上の子に買ってあげた本がたくさんある環境でした。お姉ちゃんが穏に本を読んであげていたこともありましたね。ほほ笑ましかったです。本は図書室で借りてくることがありますが、自分で読みたい本を買ってあげることが少なくて増えませんでした。育成会行事などでいただく「図書カード」がとてもありがたいです(笑)。本好きなのは、ゲームより本を読んでいる方が私の機嫌がいいこともあるのかな……なんて(笑)。

高尾 郁子さん・穏さん(小6) 【十三坊塚・6区】

本から知識や世界が広がる……その楽しさを知っている

**おもちゃ屋より本屋 本好きは親のDNAも(?)**  
 「子どもには本を買ってあげたい」「おもちゃより本だ」と自分の経験から思っています。本屋に出掛けては、あれこれと本を引っ張り出していました。幼稚園の頃から園の本をよく借りていました。お目当ての本が貸し出し中で無いときは、町の図書館やインターネットで探すなど、陽人の要望に応えるように努めていました。いろいろな興味を持つては親に質問責めをする子です。親ができるだけ答えてあげてはいるものの、満足しない(?)ときには、自分で本を開いて調べているようです。本から知識や世界が広がる……その楽しさを知っているようです。



小久保 稔夫さん・陽人さん(小4) 【上下西宿・7区】

佐々木 陽子さん・涼葉さん(小5) 【前原・4区】  
 彩葉さん(小3)・一真くん(年少)



**きっかけは宿題 自分のペースで黙々と**  
 涼葉が3年生のとき、宿題で「20分間読書」が出るように。これが読書の楽しさに目覚めるきっかけだったようです。それまでは、私がたまに読み聞かせをしてあげるくらいでした。本を通して知れることがたくさんあることに気づき、本が大好きになったようです。平日でも忙しい時間の合間をぬっては、読書をしています。知っている漢字、言い回し、語彙が少しずつ増えてきました。これも読書の効果なんですよ(笑)。私も読書は大切だと思っています。だから家族みんなで読書に没頭できる「読書タイム」が生活の中につくれればすてきな、と思っています。

家族みんなで読書に没頭できたら、どんなにすてきだろう

×「読解力」を身に付けさせたいからと「本を読め」と言う

本を読むと読解力は付くかもしれませんが、しかし、効果を狙って本を読ませようとする、逆に本嫌いになることも。力を付けるより、まずは本を楽しめるように仕向けたいですね。

×「頭をよくするため」と読み聞かせを早く始める

読み聞かせは、抱っこやおんぶ、歌、手遊びといったような日常のお楽しみと同じレベルで考えて、親と一緒に楽しみましょう。気負うと楽しいものも、楽しめなくなってしまいます。

○子どもが本を読まなくなっても強制しない

別のことに興味がある時期なのかもしれません。でも「本を読んだ(読んでもらった)」という体験は残っていると思います。また本を読みたくなる時期がくると信じましょう。

○本の勧め方を変えてみる

「本を読みなさい」ではなく、子どもの興味・関心のあるものについて「本で調べてみよう」と促してみよう。

×一度読んだ本は読まない

子どもが気に入った本は何度でも読んであげましょう。内容を暗記するほどになったら、台詞ごとに、1ページごとに、親子で代わる代わる読み合うと楽しさも広がります。

×「読み聞かせ」をすれば、やがて自分から本を読む子になると期待する

残念ながら、読んでもらった子どもが全員、自分から本を読むようになるとは限りません。でも、働きかけをしない場合よりも本や文字への抵抗は減るはず。期待せず、子どもが嫌がらないなら「読み聞かせ」は続けましょう。

×「一人で読みなさい」と言う

字が読めることと、お話を楽めることは異なるそうです。文字を拾うだけで精いっぱいなのは、ストーリーを追う余裕がなく、楽しさを味わえません。ぜひ、その楽しさを伝えてあげましょう。

○毎日5分でもよい 細く長く 読み聞かせをする

量より質。質より頻度。毎日実践することが「本のある生活リズム」をつくれます。決まった時間に……というよりは、合間合間のちょっとしたすき間の時間に。まずは1日1,440分(60分×24時間)のうちの5分から。

○漫画や図鑑のように ためにならないと思う本でも自由に読ませる

漫画も字を読まない楽しめません。図鑑ばかりとは言っても、本を手取る習慣はできています。読書への入り口はいろいろあっていいんです。

○子どもと一緒に、図書館や書店に行く

色鮮やかな本にきつと子どもはワクワクするはず。ぜひ「自分が読みたいものを自分で探す」楽しさを教えてあげてください。気になる本はチェックして「読みたい本リスト」をつくって、順番に読むのも、本との楽しい出会いにつながります。

**私の経験からお伝えしたい。「読み聞かせ」のこころがよいトコ、気を付けたいトコ**  
 三つのご家庭のお話を伺って感じたのは「読書への意識が高い」「子どもとしっかり向き合っている」ということです。今、子どもが何に興味・関心を持っているかを知っていて、その知りたい欲求を満たす努力をしている。すてきなトコ。  
 私は家庭や学校で読み聞かせをした経験から、読書習慣を身に付ける導入には、読み聞かせが最適と感じています。町では、8か月児健診時に赤ちゃんに本をプレゼントする「ブックスタート」が定着していますね。  
 赤ちゃん用の本は、なめたりかじったりしても壊れないように厚い作りになっています。初めのうちは、かじったり投げたりしてもいいので、本に興味を示したら渡してあげてほしいです。さらに、読んであげるならば、言葉を覚えさせようなんて考えず、言葉のリズムを存分に楽しんでほしいです。膝に乗っていられるようになったら、膝の上に乗せて本を見せてあげる。本を見て、大人の声を聞く時間は温かくて気持ちいいものだと感じてもらいましょう。  
 一方で「どんなふう読んであげたらいいのかわからない」という人もいます。でも、あまり難しく考えなくて大丈夫。私たちは声優さんではないので、無理に声色を付けなくても、ゆったりとはっきり落ち着いて読めばいいんです。お話の本ばかりでなく、写真がたくさん載っている「科学絵本」もいいですね。リアルな写真は何より美しいです。子どもが好きな本を選べない時期は、大人が「これ、いいな」と感じた本を読んであげましょう。自分の感性を信じてください(笑)。  
 気を付けたいのは、同じジャンルが続かないようにすること。それと、読んだあとで「お兄ちゃん豚が建てた家はどんな家だったっけ?覚えてる?」のように教育的手段として読み聞かせをするのは好ましくありません。子どもから「この本読んで」と来たら「自分で読めるでしょ」とではなく、喜んで読んであげてください。だって、好きな人に読んでもらいたくて、子どもはそこに来るのですから。

# 思い出の一冊



誰にも忘れられない本があります。子どものころに出会い、その後の人生に大きな影響を与えた思い出の本について今回は、このお二人に聞いてみました。

## 子どもたちを心豊かに、自分らしく頑張る子に育てたい

私の中学校の担任は三年間同じ先生でした。その先生が「あなたは教師が天職と思う」と私に何気なく言いました。そのときから「教師」という職業が心に留まり、教師を題材にした本を急に読みたくなりました。手にしたのが壺井栄の『二十四の瞳』です。読み始めたらやめられず一気に読み終えました。印象的な場面は二つ。一つは、新米教師として赴任した大石先生と12人の子どもたちとの



『二十四の瞳』  
壺井栄著  
株式会社KADOKAWA  
第二次世界大戦後の世相を背景に、瀬戸内海に浮かぶ小豆島が舞台。小学校に赴任したばかりの大石先生と個性豊かな12人の教え子たちによる人情あふれる物語。

やりとり。そして「この子たちの瞳をどうして濁してよいものか」と決意した場面。もう一つは、一度離れた教壇に復帰し、同窓会で子どもたちと再会。男子5人のうち3人も戦死したのを知ったとき「罪もない若い命を遠慮なく奪ったのは誰だ」と大石先生がまた泣きみそ先生になった場面です。担任の言葉はもとより、この本を読んで私は教師の道を選びました。子どもたちを心豊かに、自分らしく頑張る子に育てたい。また、罪も理由もなく人の命を奪い合う戦争はいつのも絶対にはいけない。平和も戦争も人間の考えが作り出すものだと思うようになりました。

## 「教師になる」という選択は担任の言葉と手に取った一冊



町教育委員会・教育長  
大竹 喜代子さん

●1948年生まれ。主に中学校で教壇に立ち、国語・家庭科を担当。大泉東小学校、長柄小学校で校長を歴任。定年退職後、平成23年から現職。籍上(12区)在住。

## 単に読書に浸らず精神世界を切り開くきっかけを与えてくれた

姉と先生のいざないが、本との出会いを加速させた

猛烈な読書家だった姉の影響で、私は読書ではやや早熟でした。小学4年の秋、学校の図書室でヘルマン・ヘッセの『車輪の下』を独りで探していました。前夜、姉がその本(岩波文庫)を一心に読んでいて、その題名に惹かれた私は、自分も密かに読んで姉を驚かしてやるうと思っただけです。

分厚い世界文学全集の中によく『車輪の下』を見つけた私は、図書室の先生に貸し出しを申し出ました。ところが先生は「紺野くん。この本もいいが、これは中学生になって読んだ方が



北保育園・園長  
紺野 尚久さん

●1946年生まれ。小学校教員35年。中野東小学校、中野小学校で校長を歴任。在職中は、読書活動の推進に尽力。昨年度まで10年間長柄幼稚園園長を務める。



『車輪の下』  
ヘルマン・ヘッセ著/実吉捷郎訳  
岩波文庫  
周りの人々から期待され、その期待に踏み潰されてしまった少年の姿を描く自伝的小説。



『心に太陽を持って』  
山本有三編著/新潮文庫  
人間はどう生きるべきかを優しく問いかけ、爽やかな感動を与える世界の逸話集。人の物語や動物の話など21編が収録されている。

もっといいよ」とおっしゃって、代わりに薦めてくれたのが山本有三の『心に太陽を持って』でした。その中の「くちびるに歌を持って」や「パナマ運河物語」は衝撃でした。それまで筋の面白さで読書に浸っていた私が、人間愛や不撓不屈の精神に感動していたんです。自分の精神世界を切り拓いた一冊になりました。これが契機になり、やがて吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』と出合うことになりました。

## 授業参観のときなどに、教室だけじゃなくて図書室もぞいてみてほしい

今、自分自身の反省なのですが、自分の子どもたちが小学生のときに、もっと図書室をのぞいてみればよかったな、と思います。司書の先生たちって、すごく工夫を凝らして図書室をレイアウトしています。子どもたちにはどうしたらよいか、と日々考えているんです。小学校の授業参観って、子どもの教室しか行かないですよね。でも、ぜひ図書室ものぞいてみてください。楽しいですよ。お父さん、お母さんが子ど



ものころに読んだ本があるかもしれない。そして司書の先生とおしゃべりしてみてください。自分のお父さんが教室でも家でも見せない図書室での意外な「顔」をこっそり教えてくれるなんてこともあるかもしれません。



## 読書の力 学校でも読書を応援!!

町内の小中学校全てにある図書室。自主学習の象徴的な場で、子どもたちにとって知識の宝庫、そして読書へのいざないがたくさん詰まっています。



## 保護者たちによる読み聞かせボランティア

町内の各小学校では、ボランティアによる読み聞かせが行われています。それぞれに愛称があって、中野小学校「まつぼっくりの会」、高島小学校「とうぐみ会」、長柄小学校「ひばりの会」、中野東小学校「ユウカリの会」。

## 高島小学校 ビブリオバトル

本を意味するラテン語由来の「ビブリオ」と、闘いを意味する「バトル」が組み合わさった造語。児童がそれぞれのお気に入りの本を持ち寄り、その本の魅力や面白さを紹介します。全員が紹介し終えたら「一番読みたくなった本」を多数決で決めます。

本は心と体の栄養素  
「子どもが本好きになってほしい」と願う親御さんは多いと思います。私もそうでした。でも、あんなに本をたくさん読んであげていたのに、28歳の長男は暇さえあればパソコンにきぎ付け、24歳の次男はトイレにまでスマホを持ち込む有り様。新聞も読まず、ニュースはネットで……ハア。ため息も出ますが、気を取り直して彼らに聞いてみました。「どんな本が心に残っている?」と。すると、スラスラと3、4冊の題名をあげたのです。良かったあ、少しは心に残っていたのね……。

本は心の栄養素。子どもの体の一部になっていると思います。

本探しの旅のスタートは町の図書館からどうぞ  
邑楽町の図書館は、県内で一番利用率の高い図書館です。天井が高く明るく、開放感のある館内は利用しやすいと好評で、町外からもたくさんの方が来館します。本や雑誌など図書資料を約16万冊、ビデオテープやDVD、CDなどのAV資料を約1万2千点所蔵。また「図書の貸し出

し」だけではなく、子どもを対象とした「読み聞かせボランティア」が活動しています。さらに、紙芝居、大型絵本、点字の本、大きい活字の本なども取りそろえ、さまざまな人が読書を楽しむことができます。今まであまり図書室を利用したことがない人も、一度も図書室へ入ったことのない人も、ぜひ足を運んでみてください。きっと、いい本と巡り合えるはずです。子どもだけでなく私たち大人もたまには読んでみませんか。疲れた心を癒してくれる本がきっとありますよ。

ここまでのお付き合いに感謝  
最後は「本音」でまとめます  
実は私自身「読み聞かせをしたからって、本好きになるとは限らない」って思っています。読み聞かせの効果は、親子のスキンシップで、コミュニケーションツールの一つとして楽しんでほしい、って思います。子どもがある日突然、本を読み出すことがあるかもしれません。そのときに、親は本がある環境を整えてあげることが大切かな、って思います。